

サムエル記上 第 16 章 1-13 節から、神様がイスラエルの次の王様としてダビデを選んだ時の物語を読んでみましょう。神様が、年や見かけではなく、心を見ておられたことが書かれています。(7 節)



父の羊を世話していた少年ダビデには、人生について考えたり、神様と話したり、たてごとをひいたりする時間もありません。けれども、仕事がいちど楽だったわけではありません。やがてダビデは、困難な時でも神様が助けてくださることを知ります。羊の世話には、野生の肉食動物から羊を守るという責任もありました。聖書には、ダビデがどのようにして羊をライオンやクマから守ったかが書かれています。<sup>1</sup>

<sup>1</sup>サムエル記上 17:34-35

神様は、将来イスラエルの王様として神様に仕えることができるように、ダビデを若いころから訓練しておられました。ダビデの神様への信仰が、ダビデを偉大な王様にしたので。ダビデは後に、「神のみ心にかなった者」と言われました。<sup>2</sup>

<sup>2</sup>使徒行伝 13:22。サムエル記上 13:14 には、神様がご自身の「心にかなった」王様を求めておられたことが書かれています。

旧約聖書に出てくる信仰の人  
ダビデ王



ダビデは若いころから、将来のイスラエルの王様としての油注ぎを受けていましたが、実際に王様になったのは何年も後のことでした。その間、イスラエルの王様はずっとサウルでした。イスラエルの敵であるゴリアテをたおした後、ダビデはサウル王のためにたてごとをひき、歌うように求められることもありました。<sup>3</sup>

<sup>3</sup> サムエル記上 16:18-23



ダビデは将来イスラエルを導くための準備として、最初は小さなことで神様に用いられていたのです。

ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。  
(新共同訳聖書、ルカによる福音書 16:10)



主人は彼に言った、「良い忠実なしもべよ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と いっしょに喜んでくれ。」  
(マタイによる福音書 25:21)